

中英香川

第62号

令和7年度 研究テーマ

グローバル社会に求められる英語教育の在り方
ー表現力の育成をめざした英語授業の創造ー

香川県中学校教育研究会英語部会

目次

【会長挨拶】

英語授業における課題解決に向けて

香川県中学校教育研究会英語部会 会長 小川 正晃 1

【香川県教育委員会より】

英語による発信力の向上をめざして

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 植松 崇人 2~3

【研究会・研修会】

・ 令和7年度 香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会 4

【各支部研究発表】

- ・ 小豆支部英語部会 5~6
- ・ さぬき・東かがわ支部英語部会 7~8
- ・ 高松支部英語部会 9~10
- ・ 坂出・綾歌支部英語部会 11~12
- ・ 丸亀支部英語部会 13~14
- ・ 仲多度・善通寺支部英語部会 15~16
- ・ 三豊・観音寺支部英語部会 17~18

【県下英語教育の動き】

・ 令和7年度 香川県中学校教育研究会英語部会事業概要 19

英語授業における 課題解決に向けて

香川県中学校教育研究会
英語部会 会長 小川 正晃



今年度は夏の異常気象や冬のインフルエンザ流行等、私たちの健康が脅かされることが多々ありました。会員の皆様、どのような一年であったでしょうか。日頃より香川県中学校教育研究会英語部会の活動に、多大なご理解、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

今年度も皆様のおかげで、様々な活動を充実したものにでき、喜びを感じています。同時に、充実した活動の中で、英語教育の課題が浮き彫りとなり、その解決に困難も感じています。そこで、以下の2点のことに振り返りながら、課題解決の一助とならないか考えてみます。

■夏季研修会からの学び■

7月29日、坂出グランドホテルで開催された夏季研修会では、英語“わくわく授業”研究所・代表の中嶋洋一先生をお招きし、「教科書を使って『知識』も『技能』も高め、終わりのチャイムで“えっ？もう？”と生徒が驚くような授業を創る」というテーマ、また、『育った子どもの姿』から逆算して考える単元計画とは？というサブテーマで講演をいただきました。参加者に常に問いかけ、考えさせる講演内容は、自らの授業の在り方を根本的に見つめ直すきっかけとなったのではないのでしょうか。いくつか例を挙げますと、

- 単元の最終時間から逆算して、どう授業を構築するか。
- 教科書をそのまま教えるのではなく、ポイントを押さえ、どのように教科書を料理するか。
- Teacher's Talk を授業の中にどう位置付けて、どう効果的に活用していくか。
- 「即興」を可能にするために、どのような段階性をもって生徒に力を付けさせるか？

※ マッピングの効果的な活用を踏まえて

- 「帯学習」で効果を生み出すために、どう4技能をバランスよく配分したものにするか。
- ALTとのコラボを最大限生かすために、具体的な指示の在り方はどうすべきか。

など、様々な視点について、中嶋先生の豊かなご経験・実践を基にお話をいただきました。

私自身、最も心に残るお話として、「ワークシ

ートの弊害」が挙げられます。どの教科にも言えることですが、多くの先生方が授業を進めやすくするためにワークシートを作成し、活用します。しかし、それは、生徒の考え方や思考を狭め、独自の考え方や新たな意見等、表出されにくい弊害を生むことにつながらないか。教師が教師の考えるレールに乗せて、授業を進めてよいのか・・・という中嶋先生のご意見に思わず頷き、ワークシートの活用の在り方を振り返ったものです。

毎年数多くの示唆に富むお話を聴くことができる夏季研修会。来年度もまた、学び多き研修会になるよう、最善を尽くしたいと思います。

■香小研外国語部会からの学び■

今、小学校でも英語教育は盛んに行われています。3・4年生は外国語活動、5・6年生は正式に教科書を用いて教科として外国語（英語）を学んでいます。

今年度、県の香小研外国語部会の研究主題は「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」で、副主題は「豊かなコミュニケーションを目指すための言語活動と指導と評価の一体化の工夫」となっています。キーワードは「指導と評価の一体化」で、県内各地域がその在り方について、研究授業等を通して研究を深めています。ある地域の研究授業を見て感じたことを例に挙げますと、

- この1時間で児童にどこまで力を付けさせたか、教師の思いを学習目標に掲げている。
- 活動の評価を、何で見取り（評価規準）、その出来栄はどうか（評価基準）を教師が明確にもっている。
- 評価の規準と基準をルーブリックにまとめ、それを児童と共有している。
- 活動を充実させるために、「中間評価」を適切に入れ、児童の活動に向かう意欲を高めている。
- 教師と児童が評価を共有することで、児童同士が評価をし合い、互いに高める姿が見られる。など、中学校でも必須となる大切な授業の構築や展開がなされていました。小学校の学びを受けて、中学校の学びをどのようにつなぎ発展させていくか、中学校教員一人ひとりが自らの授業を振り返り改善が求められると強く感じました。

来年度も、研修会や小学校からの学び等を大いに生かし、香川の英語教育のさらなる充実に向け、研究の深化・拡充を期待します。

英語による発信力の向上をめざして

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 植松 崇人

1 はじめに

次期学習指導要領の改訂に向けて、現在、中央教育審議会で検討が進められています。外国語ワーキンググループでは、「外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の指導」についての検討がなされ、重要なポイントが以下のように示されています。

『①コミュニケーションを行う活動（主に思・判・表を育成）と②外国語による理解・表現の質を高めるための活動等（主に知・技を育成）を関連付けて指導することが重要であり、②においては、①につながるような指導を行うことが重要』

<②を①につなげるための留意点>

- ・ ①の機会や目的が最初に共有され、児童生徒に①に向けた自分なりの目的意識を持たせる
- ・ ①の活動に必要な特定の表現を提示し、それを使って短いやり取りをするなど、児童生徒が①に向けて必要な活動を行う
- ・ 児童生徒が①に向けて授業内外で準備を行えるようにする（家庭学習との連携や学習方略の活用など）

令和8年2月6日外国語ワーキンググループ資料1より抜粋

現行の学習指導要領においても、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが求められています。本寄稿では、上記の重要なポイントを抛り所とし、本県の現状や課題を踏まえて実施した外国語教育推進モデル校事業の成果・課題を共有することを通して、今後の取組みの見直しについて考えてみたいと思います。

2 県全体の現状と課題

本県では、学習指導要領に示されている「コミュニケーションを図る資質・能力」の3つの要素（理解する、表現する、伝え合う）いずれにも課題が見られます。直近の全国学力・学習状況調査では、次のような結果となっています。

令和5年度全国学力・学習状況調査における領域別平均正答率

[聞くこと]	56.9% (58.4%)	※ () は 全国平均
[読むこと]	49.5% (51.2%)	
[書くこと]	22.5% (23.4%)	
* [話すこと (や)]	- (14.5%)	
* [話すこと (発)]	- (4.2%)	

* [話すこと] は、抽出校のみで実施し、都道府県別の平均正答率は公表されていない。

特に注目すべき点は、「聞く・読む」ことに比べ、「書く・(話す)」こと平均正答率が極端に低くなっていることです。英語を聞いたり、読んだりして理解することにはある程度の力を蓄えているものの、理解したことを踏まえて自らの考えを発信する力には、課題が見られます。

この課題を踏まえ、昨年度の寄稿では、自分の考えを表現する活動を充実させるとともに、その活動を通じて知識・技能を育成できるよう指導を充実させることが重要であることをお伝えしたところです。

3 発信力を高めるための突破口

多くの学校において、英語で発話する機会が確保される一方で、「生徒の力を伸ばせていない」という悩みも聞かれます。私にも同様の経験があります。Small Talk に力を入れていましたが、生徒の意欲が下がり、発信力を十分に高めることができませんでした。その理由は以下の通りです。

- ① 身に付けさせたい力が不明確だったため、場当たり的な指導となり、生徒はなぜその表現を学んでいるのか分からなかったこと
- ② Small Talk で身に付けた力を発揮する場を設けていなかったため、帯活動をこなすことが目的化し、生徒が意義を見出せなかったこと
- ③ 毎回新しい話題で Small Talk を行なったため、前回の振り返りが十分に生かされず、生徒が自己の成長を実感しづらかったこと

単に活動を取り入れるだけでは、生徒の発信力は高まりません。必要なのは、生徒の目的意識・相手意識を高めることと教師の段階的な指導です。

4 モデル校の取組みの成果と課題

今年度、外国語教育推進モデル校では、6月と10月に海外の同年代の子どものオンライン英会話を実施しました。モデル校の丸亀市立飯山中学校、直島町立直島中学校では、驚くほど生徒の学習意欲が高まり、自ら学びに向かう姿が見られるようになっていました。

同年代の子どもと英語でやり取りをするというコミュニケーション活動が設定されることで、生徒は、「〇〇というアニメを知っているか聞いてみたい」、「相手国の有名なアーティストについて語り合いたい」などと、自分のことについて伝えたい、相手のことを知りたいという気持ちを高めていました。

1回目の英会話では、準備したことを英語で伝え、相手への質問もできましたが、そのあと、難しい状況に陥りました。

- | |
|--|
| <p>① 相手の言っていることが理解できないため、コミュニケーションが取れない</p> <p>② 相手の言っていることが理解できても、小さくうなずくのみで、会話が続かない</p> <p>③ 相手の話が自分の興味関心がある内容なのに自分の考えをすぐに英語で表現できない</p> <p>④ 相手の話が自分の興味関心が低い内容だと、どう会話を続けたらよいかわからない</p> |
|--|

こうした経験が、生徒の意識を大きく変えました。「相手の伝えたいことを理解したうえで、やり取りができないと、互いにうれしくない。だから、まずはリスニング力を高める。そして、次の英会話では、相手がうれしくなるように、相手の思いを引き出す質問をしたい。そのために、授業で学んだ〇〇という表現を使って質問ができるように練習をする」などと、目的意識・相手意識を高め、授業で学んだことを生かせるよう家庭で練習する生徒の姿が見られるようになりました。

生徒が個々に学びを進める一方、上記の課題を踏まえて、英語による発信力の底上げが必要でした。そこで、多くの生徒が最初に直面した①、②に焦点をあてて指導を行いました。

(①について) 発信力を高めるためには、まず聞いて理解する力を高めることが必要であると気付かされました。そこで、ALTが長めの文章で海外の文化を紹介する、JTEとALTのモデル対話を見せ

たうえでJTEやALTが生徒とやり取りをするなど、英語に触れる時間を増やすとともに実際にやり取りする場面につなぐことで、表現の使用場面や用法等を理解したうえで、実際のやり取りを通じて、知識・技能を身に付けられるようにしました。

(②について) リアクションや質問が大切だと分かっているにもかかわらず、本番さながらの練習をしないと、即興では使えないという気付きがありました。そこで、以下のように段階的に練習を行いました。

- ・使用場面が示されたReaction Sheetをもとに、Small Talkで多様な表現に挑戦する
- ・Mappingで話すことや質問することを整理する
- ・相手国の文化的な情報を踏まえた想定問答シートを活用し、海外の生徒役と日本人役に分かれて即興的に対話を続ける練習をする

本番を想定した練習を通じて対話が深まることを実感した生徒は、さらに自分にとって必要な表現を教科書から探したり、教師から教わったりする姿に変わっていきました。

こうした指導を積み重ねた結果、2回目の英会話では、見違えるほど成長した生徒の姿を見ることができました。残る課題の③④については、次年度、その解決方法を見出そうと考えています。

5 おわりに

冒頭の「外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の指導」のポイントを再度ご覧ください。オンライン英会話に向けて理解と表現の質を高める指導を行ってきたモデル校の実践は、この重要なポイントに重なっており、まさに英語による発信力を高めるものです。

オンライン英会話はどの学校でもできるものではありませんが、教科書の内容や学校・地域の資源を生かした活動を設定して生徒の目的意識・相手意識を高めるとともに、本番の活動に向けて段階的な指導ができれば、英語による発信力が飛躍的に向上すると確信しています。

県教育委員会では、次年度もモデル校におけるオンライン英会話を推進してまいります。ぜひ、公開授業へ足を運んでみてください。生徒の姿から授業改善のヒントを見出し、皆さまと共にこれからの英語教育の在り方を深く語り合いたいと考えています。

令和7年度 香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会

7月29日(火)、坂出グランドホテルにおいて、令和7年度香川県中学校教育研究会英語部会が開催された。本年度は英語“わくわく授業”研究所代表の中嶋洋一先生を招聘し、「教科書を使って『知識』も『技能』も高め、終わりのチャイムで“えっ？もう？”と生徒が驚くような授業を創る」という演題のもと、ご講演いただいた。

【日程】

1. 開会行事

2. 講演・ワークショップ

演題「教科書を使って『知識』も『技能』も高め、終わりのチャイムで“えっ？もう？”と生徒が驚くような授業を創る」

講師 英語“わくわく授業”研究所
代表 中嶋洋一先生



3. 講評・指導

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 植松 崇人 先生

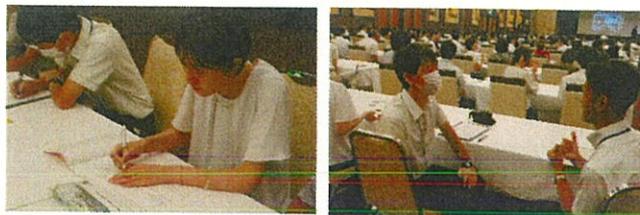
4. 閉会行事

【研修内容】

講演・ワークショップ

『教科書を使って「知識」も「技能」も高め、終わりのチャイムで“えっ？もう？”と生徒が驚くような授業を創る』
講師 英語“わくわく”授業研究所
代表 中嶋 洋一 先生

授業での導入場面を実際に会話形式で行ったり、英作文を作成したり、とても実践的な内容の研修であった。



授業中の会話表現のトピックやテスト問題を作成する際に、大切にしなければならないのは、英語を使う必然性、「何のために」という目的、場面と状況（何をするか）であるということ。所謂、「目的・場面・状況」を明確にすることで、生徒の「英語を使いたい、英語を話したい」という意欲を高めることができる。

【指導・講評】

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 植松 崇人 先生



【まとめ】

第2言語である英語は、身近な存在であるとは言いがたい。だからこそ、学習に対するモチベーションがとても大切になる。中嶋先生からは演題にある通り、生徒のモチベーションを高め、生徒が「えっ？もう？」と驚くような授業を構築するためのヒントを数多くご教示いただいた。生徒とともに学びつつ、生徒が英語を学ぶ意義を実感できるような授業を構築していくための一助とさせていただきたい。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

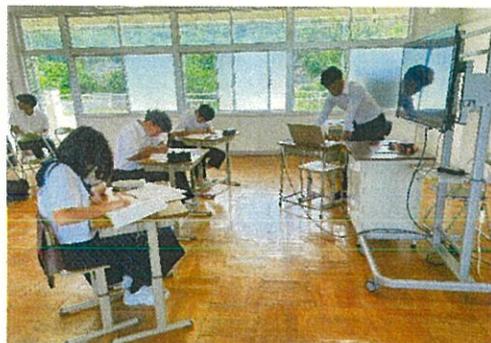
—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

小豆支部英語部会

1 研究主題について

小豆支部では、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」のテーマのもと、授業研究を進めている。また、小学校の外国語科とのスムーズな接続や高校との連携をどのように進めていくかを考えている。英語で自分のことを表現する楽しさを生徒に伝えるために授業研究を進めているところである。

「主体的・対話的で深い学び」と表現力の育成をめざした授業改善をはじめ、思考・判断・表現の評価を意識した言語活動や教科書の本文の扱い方など、各校で情報交換をしながら、より効果的な指導法を模索しているところである。



2 研究と実践

(1) 小豆地区 総会

- ・日時 令和7年4月16日(水)
- ・場所 土庄中学校

役員を選出、研究主題の設定、年間研究計画の決定を行った。

(2) 研究授業

- ・日時 令和7年6月11日(水)
- ・授業者 前田 研吾 教諭(豊島中)
- ・題材 Program5 Work Experience
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

リスニング活動を通して、既習事項についての理解を深めることをめざした授業であった。アニメ映画のコマーシャルやショート動画など、教科書にはないような生きた英語を生徒に提供しようとする姿勢がすばらしかった。しかし、量・スピード的に難易度が高かったため、ディクテーションよりは概要をつかませるような活動にしてもよかった。

(3) 研究授業

- ・日時 令和7年10月30日(木)
- ・授業者 野村 真由 教諭(小豆島中)
- ・題材 Program5 The Story of Chocolate
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

関係代名詞(主格)を用いて、自分の好きな人やものについて即興で友だちに紹介することをめざした授業であった。左右、前後、ななめなど、いろいろな人と自然に交流できる雰囲気づくりがすばらしかった。しかし、文法が十分に定着しないまま一足飛びになってしまっている面もあった。また、外国にルーツのある生徒が複数名在籍しているクラスだったので、そのような生徒の力を借りて授業に生かせるとよかった。



3 成果と課題

今回の研究授業では、郡内にある中高の英語科教員が集まり、表現力や思考力を育成するための言語活動について話し合うことができた。また、英語が苦手な生徒への手立てや工夫を考えたり、実践例を共有したりすることができた。

今後も、コミュニケーション手段としての英語習得をめざし、課題に重点を置き、4技能のバランスを図りながら授業実践を行っていききたい。また、即興でのやりとりを積極的に英語で取り入れたり、まとまりのある英語を聞かせて概要を考えさせたりするなど、実用的な英語を習得できるような取組も続けていかなければならない。

小豆郡は各校種と連携が比較的とりやすいので、小中高との連携もより一層図りたい。教科書の指導計画をしっかりと見直し、評価を工夫したり、タブレット端末を有効に活用したりしながら、主体的・対話的で深い学びのある学習となる研究をさらに進めていきたい。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

さぬき・東かがわ支部英語部会

1 研究主題について

さぬき・東かがわ支部では、県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」を研究主題とした。また、3つの柱のうち、「互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫」や「小・中・高のつながりを意識した授業構築の工夫」を意識した研究授業や情報交換を行った。

2 研究と実践

(1) さぬき・東かがわ支部 総会

- ・日時 令和7年5月2日(金)
- ・場所 さぬき南中学校
- ・研究計画

5月2日(金) 教科研究会

- 研究主題の設定、研究組織改編
- 年間研究計画の作成

6月4日(水) 教科研究会(白鳥中)

- 研究授業、討議、情報交換

6月12日(木) 春季大会(大川中)

9月11日(木) 英語弁論大会(長尾中)

9月12日(金) 教科研究会(志度中)

- デジタル教科書研修会、情報交換

1月中旬 さぬき・東かがわ支部英語部会

- 研究紀要作成、発行

(2) 研究授業

- ・日時 令和7年6月4日(水)
- ・場所 白鳥中学校
- ・授業者 横井 正昭 教諭

ALT Gemma Bulatao

- ・題材 NEW HORIZON English Course 1
Unit 3 Our School

・本時の目標 クラスメイトとお気に入りの人や物について、尋ねたり答えたりすることができる。

- ・授業討議

- 言語活動では、会話の中で生徒が自然と

相づちを打っており、小学校からの英語学習のメリットが生かされていた。

- 生徒から次々と語彙が出てきており、生徒同士の学び合いになっていた。

- 言語活動中に、文法事項の基礎・基本を押さえることもできていた。

- 小学校で扱う言語材料を中学校の教員が知っておくことで、中学校で用いる言語材料を選びやすくなると思われる。



【尋ねたいことを、黒板で確認して進めている様子】

- ・指導、助言

- What's your favorite ~?の例が生徒たちから多く出され、ペアワークではそれらの中から自分の聞きたいことを選んで質問してすぐに答えており、即興で伝え合うという目標が達成されていた。

- 対話中、Questions and Answersだけで終わらずアクションがあり、小学校でのsmall talkの取り組みが生かされていた。

- よい会話がなされた時には、それを教師が全員の前で紹介することで、他の生徒の学びをさらに深めることができる。

- ペアワークの有効性について、次のような点が挙げられる。

① 発話量を増やすことができ、話す機会を確保できる

② 一人ではできないことも二人でならできることがあり、教え合いによって、内面的なやる気を高めることができる。

③ ペアの組み方を目的に応じて変えるこ

とで、目標の達成がより高められる。

④ 様々な相手から学ぶことができ、視野を広げることができる。



【ペアで英問英答をしている様子】

・情報交換（音読について）

- 音読カードを作成し、教師が音読をチェックする。すらすら読めたらシールを渡して、レベルアップを図っている。
- 本文の会話文の Read and look up を行った後、暗唱させている。
- デジタル教科書の単語にマスクをかけて、音読練習をしている。
- シャドーイングを取り入れている
- ポートフォリオを作成し、ALT にチェックをしてもらっている。

(3) 研修会

- ・日時 令和7年9月12日（金）
- ・場所 志度中学校
- ・講師 東京書籍四国支社 林 良輔 氏
- ・講習内容 デジタル教科書の効果的な使い方について

- ① 指導者用デジタル教科書の機能紹介
HTML版とLentrance版の2種類について
 - ② 紹介機能を使った操作体験
Key Sentence 解説動画、ストーリースライド、デジタルマップ、ステージアクティビティの効果的な使い方について
 - ③ 質疑応答
 - 日本語訳で、スラッシュが入った順に並び替わる機能についての有無
 - 音読をするときに、文字が消えていく機能についての有無
 - クリックによって、語句にマスクをかけたりはずしたりすることは可能か
- ※ 今後のバージョンアップ計画で説明

④ 今後のバージョンアップ計画（2025年秋頃の予定）

- 本文ビューア → 拡大の際、画面サイズに応じて英語や日本語訳の改行、再生速度を9段階に調整できるよう変更、スラッシュごとに区切れた音声再生機能と音声の1秒ポーズ機能の追加
- T or F、Q and A → 音声のみで問題を提示できるように、テキスト非表示機能の追加
- フラッシュカード → 英語カードのアクセント表示と品詞表示、回数変更のリピート再生機能の追加



3 成果と課題

6月の研究授業では、言語活動にペアワークが取り入れられており、授業討議ではペアワークについて意見交換がなされ、ペアワークのさせ方や時間等について考えることができた。また、ペアワークの有効性についての教示もあり、それらを参考にその後各々が表現力の育成に向けて授業を構築し、実践していくことができた。

今年度から教科書が新しくなり、それに伴いデジタル教科書も変更されている。支部の全会員がデジタル教科書を使って授業を行っているが、年度当初は変更戸惑うことも多かったため、9月の研究会ではデジタル教科書の効果的な使い方について講習会を行った。使用にあたっての疑問点を事前に講師に連絡しておいたため、当日はその疑問点の回答も含めてデジタル教科書の様々な使い方を知ることができ、大変有意義な時間をもつことができた。

地区のすべての学校においてタブレットの日常的な使用が浸透しており、デジタル教科書に限らずICTを活用する機会も増えてきている。そこで、今後はICTを効果的に生かした授業の構築についても考えていく必要があると思われる。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

高松支部英語部会

1 研究主題について

■高松支部では、県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」を研究主題とし、サブテーマも表現力の育成をめざした英語授業の創造としている。また、その3つの視点を、①言語活動及び言語活動を通じた指導の充実、②指導と評価の一体化をめざした授業実践の工夫、③小・中の円滑な接続と学びの連続性を意識した指導の充実とした。

2 研究と実践

(1) 第3回高松支部英語部会主任会

- ・日時 令和7年9月24日(水)
- ・場所 高松市総合教育センター
- ・研修 東京書籍 城戸氏、林氏によるデジタル教科書の研修
- 今回の研修では、今年度よりデジタル教科書が変わったため、指導者用デジタル教科書の機能の紹介をしていただいた後で、各学校からの質問に答えていただき、研修を深めていった。研修の中では、指導者用デジタル教科書の機能、おすすめコンテンツの紹介があり、今後すぐに役立てそうな情報を得ることができた。また、総合教育センターでタブレットをお借りし、実際に操作しながら確認をすることができ、有意義な研修となった。



(2) 第4回高松支部英語部会主任会

- ・日時 令和7年11月25日(火)
- ・場所 高松市立玉藻中学校

- ・実践発表 高松市立古高松中学校 笠井 雄司先生

「目標と指導と評価の一体化」について、四国英語教育研究大会(高知大会)の分科会で発表される実践報告を行った。評価シート(ルーブリック)を活用してからの生徒の変容について、具体例を挙げながら発表された。

(3) 研究授業

- ・日時 令和7年10月23日(木)
- ・場所 高松市立桜町中学校
- ・授業者 新開 タ大先生
- ・題材 「Unit6 How can we make a good presentation」
- ・本時の授業の概要

既習の形容詞や副詞の知識を活用し、2つ以上のものを比較する表現について学習する。以下の3枚の資料については、指導案及び本時の学習に用いたワークシートである。

第2学年7組 外国語(英語) 指導案

指導者 新開 タ大
場所 2年7組教室

- 日時 令和7年10月23日(木)
- 単元名 How can we make a good presentation? Unit 6 Part 1
- 単元について
 - この単元では、既習の形容詞や副詞の知識を活用し、2つ以上のものを比較する表現について学習する。「比較する」という行為は、日本語でも頻繁に行われるものであり、英語でもコミュニケーションにおいても重要なスキルである。身の回りのものや身の回りのことについて比較しながら意見を述べ合う活動を通じて、英語を実際にも活用できる。また、学習指導要領のコミュニケーションシナリオ達成することで、英語で「伝え合う力」の育成を図ることが出来る。
 - 本単元の目標は、英語学習の目標達成のために体系的に取組むことである。コミュニケーションを円滑にする表現が身に付けられる。その一方、英語をためらう生徒や、英語での活動にあまり自信がない生徒もおり、活動内容や活動に向けた準備段階での挨拶や声かけが重要である。1年次では、形容詞や副詞を活用して、人やものについての情報を相手に伝える方法を学習した。この内容を踏まえ、本単元においては、前者との比較を通して自己意見を深めていく時期であることを意識した単元設定を行うことが必要である。
 - 本単元の目標を達成し、正確な理解を深めたり、話し合ったりすることができることを目標とする。生徒が比較表現を自分のことばとして使うことが出来るように、いくつかの文を提示し、その共通点や異なる点を挙げていくなどして、既習事項を振り返りながら体系的に学習を進められるようにする。また、英語が自然な手段で伝達し、ペアやグループでの活動だけでなく、多くの生徒と交流する場面を設けることで、安心して発話できる環境を整える。さらに、聞く・話す・読む・書くという多様な言語活動を組み合わせた、身近な話題を取り上げることで、授業が英語で実践出来る楽しさや達成感を持っていくことが出来るようにする。これらの目標を達成し、高いレベルの英語学習能力を伸ばす力を育成したい。

実践・指導	評価・判断・整理	主体的に学習に取り組む態度
・比較詞、指示語を用いた文の構造について理解している。 ・適切な評価について、比較詞、指示語を用いて、好きなものや人などを比較する文を判断し、誤りや不適切な点について指摘する。	・自分の活動について、2つ以上のものを対比して説明し、好きなものや人などを対比して説明し、誤りや不適切な点について指摘している。 ・簡単な情報形式を用いて自分の意見、理由を説明している。	・自分の活動について、2つ以上のものを対比して説明し、好きなものや人などを対比して説明し、誤りや不適切な点について指摘している。 ・簡単な情報形式を用いて自分の意見、理由を説明している。

- 単元の目標
 - 比較詞、指示語を用いた文の構造について理解することができる。
 - 自分の活動について、2つ以上のものを対比して説明し、好きなものや人などを対比して説明し、誤りや不適切な点について指摘することができる。
 - 簡単な情報形式を用いて自分の意見、理由を説明することができる。

6 学習指導計画 (全 8 時間)

時間	Part	目標 (■) 及び主な言語活動 (●)	評価
1 (本時)	1	■身近なものや人を比較して表現するために、比較級と最上級の基本的な文の形と使い方を理解し、実際に会話や文の中で活用することができる。	
2		●絵や写真などを見て2つ以上のものを比較する。(例) The man is taller than the woman. ●自分の身長などを級友と比較し合う交流活動。	・比較級と最上級の文を正しく使うことができるか。 ・比較する対象を正しく認識できているか。
3、4	2	■2音節以上の形容詞や副詞の比較級、最上級の形や使い方を理解し、身近なもののや人を比較して自分の考えや意見を表現することができる。 ●学級内で人気の食べ物やキャラクターなどを調査し、発表する。(例) The most favorite food is ~. The most popular character is ~.	・音節を理解し、2音節以上の形容詞や副詞を見分けることができるか。 ・学級内で調査したい内容を自ら決定し、発表しようとしているか。
5、6	3	■good / well の不規則変化 (better / best) を理解し、身近な物事や自分の考えを表現する際に適切に用いることができる。 ●better や best を使い、自分の好きなスポーツや食べ物などについての紹介文を作成し、それをもとに級友にインタビューを行う。	・既習の比較級、最上級と better や best の違いについて説明できるか。 ・自分の言葉で表現し、積極的に活動に参加しようとしているか。
7、8	4	■as~as の表現を理解し、既習の比較級や最上級の内容と比較し、身近なものを比べて「同じくらい〜」や「〜ほど…ではない」と表現できる。 ●自分と級友や有名人を比較し、同じところや異なるところについて紹介文を書く。 ●これまでにを行ったインタビューの結果を、生成 AI などを使用してまとめ、ポスターを作成する。	・as~as 表現を正しく使うことができるか。 ・比較対象を明確にし、適切な比較を行うことができるか。

7 本時の学習指導 (1/2時間)

(1) 本時の目標

- 身近なものや人を比較して表現するために、比較級の基本的な文の形と使い方を理解し、実際に会話や文の中で活用することができる。

(2) 準備物

- ・ 教師：教科書、英語パーフェクトノート、映像資料 (電子黒板)
- ・ 生徒：教科書、英語パーフェクトノート、ファイル、GIGA 端末

(3) 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
1 あいさつ (4分)	○ 英語でのあいさつや簡単なやりとりを通して、外国語の授業が始まるという気持ちの準備を生徒に促し、英語を活用する動機付けとする。
2 学習目標の確認 (1分)	比較級の用法をマスターしよう
3 文法事項の解説 (20分)	○ 比較級の英文を作る際に注意すべき点を教師が伝えるのではなく、いくつかの英文を通して生徒に共通点を見つけてさせる。 ○ 教師が、留学経験があり、教科書の Unit Activity でも学習したカナダを扱うことで、生徒の興味を引き、より身近なもので比較できるようにする。 ○ 生徒の発話時間 (Student Talking Time) を確保するため、英文を1度教師のあとに続いて発音させる。 ● 比較級の文の共通点を見つけてことができる。
4 問題演習 writing (10分)	○ 比較表現は形容詞を変化させることを意識づけさせるため、形容詞の意味と発音の復習を行う。 ○ 英語が苦手な生徒にも段階的に理解できるように、問題の難易度を調整する。机間指導の際に生徒の理解度を把握し、必要であれば、要点の解説を再度行う。 ● 比較級の文を正しく使うことができる。 ● 比較する対象を正しく認識できる。
5 問題演習 speaking (10分)	○ 比較表現の規則性を理解し、それを即興で活用することができるようになるために、まずは形容詞のみを変化させる練習から始め、その後、主語と形容詞を変化させる活動へと進める。 ○ ミングルの形式の活動を取り入れることで、多くの生徒の発音や英文に触れることができる。より良い発音で発話できるように、机間指導を行い、うまく発音できていない箇所を最後に全員で復習する。 ○ まずは教師が見本を見せ、生徒と一緒に発音を行う。 ● 比較級の文の構造を理解し、積極的に活動に取り組もうとしている。
6 振り返り (5分)	○ 生徒が板書や Handout に頼らず、自分の言葉で内容を整理することで、主体的な理解を促し、課題意識や理解度の発露につなげる。 ○ 何も見ずに書くことが難しい生徒には、一緒に授業内容を振り返り、少しでも内容を思い出せるよう支援する。

Unit 6 Part 1

Class() No.() Name()

比較級の用法をマスターしよう!

☆カナダは日本より大きい。Canada is () than Japan.
☆日本はカナダより小さい。Japan is () than Canada.

◎ 2つのものを比べる時には () + ()

◎ -er は () の後に付ける

◎ than の後ろには () !!

☆覚えておこう! これまでに学習した形容詞

大きい () 小さい () 重い () 軽い ()
短い () 長い () 速い () 遅い ()
暖かい () 寒い () 柔らかい () 硬い ()

☆比較級にしてみよう!

large → () heavy → () short → ()
fast → () warm → () soft → ()
big → ()

Let's practice ②: 並び替え

1. _____
2. _____

■授業の感想として

〈参加者からのメッセージ〉

・生徒たちが積極的にペアと文を作っていました。自由度の高い表現活動でも、抵抗感なく活動することができていました。

・丁寧に構成されており、段階的な学習が効率的に進められていたと思います。また、授業の最後には、本時の学習内容を自分の言葉で振り返る時間が設けられており、理解の深化と定着に非常に効果的だと感じました。

・新しい単元では、単元ゴールを生徒たちと先生で共有し、単元ゴールを達成できるようにバックワードデザインで単元構成を考えてみるのもいいかと感じました。

(授業の様子)



3 成果と課題

■今年度は、デジタル教科書の研修を行い、これからの実践につなげることができた。次年度は、3つの視点からの継続的な研究と「ICTの効果的な活用」の実践を重ねる。また、より多くの人材で、実践発表や情報交流の場を夏季研修会として設け、より研究を深めていきたいと考えている。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

坂出・綾歌支部英語部会

1 研究主題について

坂綾支部では、グローバル社会において、英語によるコミュニケーションが生涯にわたり様々な場面で必要とされることが想定される中で、その能力の向上が課題となっている。英語でコミュニケーションを図る資質や能力を育てるために、生徒の主体的・対話的で深い学びを基盤として、さらなる表現力を育成できるような表現活動の充実が求められている。

そこで本部会では、これまでの研究を土台として、学習指導要領の趣旨に沿った授業の展開・工夫を行い、グローバル社会に求められる英語教育の在り方について研究を進めることとした。

2 研究の進め方

- (1) 研究授業・研究討議、日々の授業実践を通して研究主題に迫る。
- (2) 研究の過程
 - ① 5月1日（綾川町立綾川中学校）
研究組織及び研究主題の決定、研究の進め方についての共通理解
 - ② 6月6日（宇多津町立宇多津中学校）
研究授業及び授業討議
 - ③ 9月30日（坂出市立坂出中学校）
研究授業及び授業討議

3 研究授業 1

- (1) 日 時 令和7年6月6日
- (2) 授業者 武上 雄輔（宇多津中学校）
- (3) 題 材 オリジナルアプリを考えて
BOSSに提案しよう

(4) 内 容

- ① 本時の学習目標
 - ・ 助動詞 can を使って、アプリの提案書を書くことができる。

- ・ 提案内容について相手に理解してもらうために、具体的な説明とともに伝えようとしている。

② 学習内容及び学習活動

ア 班で can を使った 1 分間スピーチを行い、can の活用の意識を高める。

イ 学習課題を設定し、アプリでできることを考える。

ウ アプリ開発会社の役員役を設定し、アプリの採用基準を作成する。

エ 考えたアプリを役員にプレゼンする。最終的に役員がベストアプリを決める。

オ 本時の学びについて振り返る。

③ 討議内容

「生徒が主体的に学ぶための工夫」を軸として研究討議を行った。条件設定が多い中、生徒は自分たちのアイデアを、既習事項を使って何とか表現しようとしていた。主語が人からものに変化するなど、小中の学習内容の違いを確認し、小中連携の視点も意識した学習活動が行われることが望ましいとの意見もあった。

表現活動の中で、生徒が自ら考え、意見を共有する姿に生徒の成長を実感し、生徒たちの探究心と主体性をさらに引き出すための授業改善に取り組む重要性を再確認した。

4 研究授業 2

(1) 日 時 令和7年9月30日(火)

(2) 授業者 片山 真帆(坂出中学校)

(3) 題 材 Program5

The Story of Chocolate

(4) 内 容

① 本時の学習目標

- ・ 関係代名詞を活用して相手が知らないものについて分かりやすく説明することができる。
- ・ おすすめのお菓子という話題に沿って質疑応答し、会話を継続、展開することができる。

② 学習内容及び学習活動

- ア 帯活動の Small Talk を行う中で、お題の食べ物を多角的に説明する。
- イ 場面設定とALTの情報を確認する。
- ウ お勧めのお菓子についてペアで発表ややり取りを行う。
- エ 中間評価で生徒の良い点と課題点を確認し、再度ペア活動を行う。
- オ 本時の学びについて振り返る。

③ 討議内容

日頃からのコミュニケーション活動を取り入れていたことにより、「相手に勧める」という場面設定や、ALTに関する情報があつたため、生徒は主体的に活動に取り組むことができていた。

課題として授業の山場を作るために、時間配分や活動の軽重の付け方を工夫する必要性が挙げられた。また、指導と評価を一体化させるために、中間評価で良いところのみではなく改善点も取り上げることで、生徒が目指す理想像を全体で共有することが有効だということを討議した。

5 今後の課題

研究授業ではどちらも、コミュニケーションを積極的に図ろうとする生徒の姿が見られた。英語力に差はあるが、小中連携をふまえた学習課題の設定やALTと連携した動機づけによって、生徒の主体性を引き出すことができると分かった。

一方で、指導と評価の一体化の視点において、これからも研究を進めていく必要がある。活動中の中間評価を充実させるために、評価基準を明確に示しておいたり机間指導を意識して行ったりするなど、改善点が見られた。

また、充実させたい言語活動のために、他の活動との時間配分や軽重の付け方をいかに行うかについては、今後も議論を重ねる必要がある。「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ために、単元をどのように捉え授業を構築していくか。教科書が改訂された初年度だからこそ、より研究を進めることが求められる。



〔研究授業1〕

宇多津中学校での授業の様子



〔研究授業2〕

坂出中学校での授業の様子

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

丸亀支部英語部会

1 研究主題について

■丸亀支部では、香川県の研究テーマを受けて、表現力の育成を目指して授業づくりを行っている。それに伴い丸亀市独自の取り組みとしてオンライン英会話を導入し、日々の授業に組み込むことで、即興的な英語でのやり取りをする力の育成を図っている。また英語教育の発展を目的とした「石垣プロジェクト」を行っており、その一環として、県外の英語教育先進校への視察をして研究授業に参加するなど、教員の授業力の研鑽に力を入れて研究を進めている。

2 研究と実践

(1) 丸亀地区 総会

- ・日時 令和7年5月2日(金)
- ・場所 丸亀市立東中学校
- ・本年度の研究テーマの決定
- ・本年度の役割分担

(2) 丸亀地区 夏季研修会

- ・日時 令和7年7月25日(金)
- ・場所 丸亀市立西中学校
- ・各校の取り組み
- ・英語教育教育推進モデル校事業 飯山中学校のオンラインでの国際交流の実践報告

(3) 研究授業

- ・日時 令和7年11月12日(水)
- ・場所 丸亀市立綾歌中学校
- ・授業者 教諭 喜田 和真
ALT Mark Cruz
- ・指導者 坂出市立坂出中学校校長
小川 正晃
- ・題材 Power-Up 2 ポスターから情報を読み取ろう
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

■・目標

- ① 英語で書かれたポスターから、必要な情報を読み取ることができる。
- ② 読み取った情報をもとに、課題に対して考えを提案する英語を協力して書くことができる。

■・授業における工夫点



- ① 情報を読み取り、伝えようとするモチベーションを上げるため、各自がロイロノートでポスターを作成し、それらを全員で共有できるようにした。また、各自が書いたメールも同様に共有し、友だちの良い表現に気付くことができた。
- ② 個別の学びを意識し、1人1人が少しでも成長を感じられるよう個人で表現する時間もとった。【ロイロノートで共有】



■・指導・助言

- ① 評価の基準と規準を示し、生徒たちがどこまでできたらいいかを意識させることによって、より良い表現をめざすことができる。指導と評価の一体化が大切である。
- ② ペア活動、グループ活動も有効的に活用

しながら、個の学びを大切にしてほしい。

- ③ ICT を使って情報を共有することによって、他者から学ぶことができていた。ICT が効果的に活用できていた。
- ④ 教科書から一步離れ、身近な場所なども話題に取り入れながら語り合う時間も大切にしたい。

(3) 丸亀地区 研修会

- ・日時 令和7年12月3日(水)
- ・場所 丸亀市立綾歌中学校
- ・次年度の役割分担の確認
- ・飯山中学校の取り組みについて

2025.1.23

Let's enjoy Online 英会話!

Name() No()

【ALTの先生が言った内容を書こう。日本語、英語、単語だけでもOK!】

私の声が聞こえますか? Can you hear me?			
	ALT's Name		
ゆっくり話します。 Please speak slowly.			
			もう一度言ってください Please say that again.

①【ALTの先生が話した英文や、自分が言えた英文を書いてみよう。】

②【自分が言いかけた(聞かされた)けど言えなかったことを書いてみよう。】

【オンライン英会話を重ねての振り返り】 成果や課題

ENGLISH

【オンライン英会話のワークシート】

■ 丸亀支部では本年度よりすべての中学校でオンライン英会話を実施している。飯山中学校では昨年度から先行実施をしており、本年度は外国語教育推進モデル校事業の一環として「World Classroom」を活用して海外の同年代の生徒とオンラインで互いの学校紹介を行うなどの国際交流を行った。昨年度の取組を通して生徒のリスニング力向上が重要な課題として明らかになったため、今年度はその課題解決に向けて、教員同士や生徒同士による Small talk を日常的に取り入れ、さらに AI とのやり取りを活用した実践的練習を行うことで聞き取り

と応答の力の育成を試みた。また季節や学校行事に合わせた ALT による英語放送を実施し、生活場面に即した自然な英語を耳にする機会を設けた。国際交流に向けては、生徒が自ら「話したい」と思える身近な話題をテーマに選び、テーマごとにグループを編成して活動を行った。3Hint Quiz を取り入れるなど相手を意識した質問や内容構成を工夫し、さらに「Reaction Sheet」を活用することで、ただ質問したり、相手の質問に答えたりするだけではなく、listen and repeat など、相手の発言に対してリアクションできるように工夫をした。結果、生徒のリスニング力が着実に向上し、英語でのやり取りの時間が以前より長くなるなど、交流の質と量の両面で成長が見られた。

3 成果と課題

■ 表現力の育成を目指し、今年度全中学校でオンライン英会話を導入するとともに、即興的なやり取りを取り入れた授業を実施した。生徒は、実際のやり取りを楽しみながら積極的に参加し、英語で自らの考えを伝えようとする意欲が高まるなど、表現活動への前向きな姿勢が育まれた。また、即興的なやり取りを通じて、準備された表現だけでなく、その場で考えて応答する実践的なコミュニケーション能力の向上が期待された。さらに、県外の英語教育先進校を視察することで、授業構成や指導法に関する具体的な知見を広めることができ、支部全体の授業改善につながる貴重な機会となった。一方で、オンライン英会話をより効果的に活用するためには、年間を通じた計画的な導入が必要であり、継続的な指導体制の構築が今後の課題である。また、即興的なやり取りを授業に取り入れる際には、生徒たち自身が自分の到達度を測れるように評価の基準と規準をはっきりとさせること、身近な場所なども話題に取り上げ、より身近に感じさせるよう工夫することが必要である。また授業研究として、視察で得た知見を支部内で共有し、組織的な取り組みへと発展させていくための情報共有の仕組みづくりも求められる。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

仲多度・善通寺支部英語部会

1 研究主題について

社会のグローバル化が一層進み、英語力の重要性は高まり続けており、求められる英語力の育成が引き続き大きな課題となっている。また、日本に外国人が増え多文化社会となり、言語としての英語というだけでなく、その背景にある文化や習慣などを理解し、コミュニケーションを取ることができる生徒の育成が必要であると考え、授業改善を図ることとした。

2 研究と実践

(1) 仲多度・善通寺地区総会

- ・日 時 令和7年5月1日(木)
- ・会 場 多度津町立多度津中学校
研究組織及び研究予定の確認、表現力を育成し、個別最適な学びにつながる効果的な ICT の活用方法を主な研究主題とすることを決定した。

(2) 教科代表の研究授業

- ・日 時 令和7年6月17日(火)
- ・授業者 T1 教諭 信中 健吾
T2 ALT Julie Howard
- ・題 材 Our Project 4
「海外でヒットするラーメンのCMを作ろう」

架空の企業の募集に応募し、アメリカでヒットするラーメンのCMの採用を目ざすという設定で、グループで台本を作り、視聴者に伝わるようにプレゼンテーションをした。

学習指導要領の「聞くこと」の項目において、強勢、イントネーション、区切りなどの基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることや、「書くこと」の項目において、自分の考えや気持ちなどが正しく読み手に伝わるように、文と文とのつながりなどに注意して文章を書く力を育成することを目標とした。また、聞き手に分かりやすい説明になるように、既習の語(句)や表現を使って説明する力や聞き手を引きつける力の育成もねらいとした。そして、作成したものをコラボノートで全体に共有し、他のグループの考えや表現の仕方の工夫を参照できるようにした。

(3) 教科研究員研究授業

- ・日 時 令和7年10月10日(金)
- ・授業者 T1 教諭 北山 啓太
T2 ALT Monica Botha
- ・題 材 Power-Up3

「レストランで食事をしよう」
ハワイのレストランで注文したり、おすすめのメニューを提案したりする場面で、基本的な英語表現の意味や働きを理解し、主体的にやり取りをすること、また、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、互いのことを配慮しながら対話することを目標とした。

音読やリピート練習などで、知識・技能の定着を図り、自信を持って生徒自身が発話できるように、ペアやグループでの対話活動を中心に据え、支え合いながら学ぶ場を保障した。また、実際のレストランの場面を想定した視覚教材を活用し、具体的イメージしながら表現練習ができるようにした。

また、最終的にALTとの即興のやり取りに挑戦させることで、達成感を味わわせ、英語学習に対する意欲付けもねらいとした。

3 成果と課題

研究授業では、グループやペアで教え合ったり確認し合ったりする姿が見られ、互いにコミュニケーションを図ることで、英語学習への苦手意識が強い生徒も、授業に参加でき、「表現できた」「分かった」という達成感を味わうことができ、次の課題への意欲となった。また、ICT機器を使って、互いの意見を交流することで、自分たちが考えていなかった表現方法を知ることができ、自分たちのプレゼンテーションに生かすことができた。

英語学習に対して苦手意識を持つ生徒をどうやってグループや全体とつなげばいいか、また、ICTの適切な活用方法、文化的な背景を視野に入れてのコミュニケーション活動の育成が今後の課題である。

〔教科研究員の研究授業の指導案〕

学習内容及び活動	生徒の思考の流れ	指導上の留意点
1 あいさつをする。 2 ステップアップリーディングを行う。 3 本時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 英語が消える前に読み切れるかな。 何度も繰り返すうちに覚えてきたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> Reading→Blank Reading→Translation Reading→Vanishing Readingと徐々に負荷と自立性が高くなる4段階の音読を通して、教科書本文の復習と暗唱を図る。
ハワイのレストランに入店して、料理を注文しよう。		
4 会話のロールプレイをする。 (1) 活動の流れを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルの会話文を作るのは難しいな。 日本のレストランでは何て言ってるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> シチュエーションカードと会話の流れを配布し、自分たちでオリジナルの会話文を作ることができるようにする。
バズ課題：ペアで協力して、店員と客の会話を完成させよう。		
(2) オリジナルの会話文を作る。(グループ) (3) 対話練習をする。(ペア) (4) 店員役と客役に分かれてロールプレイを行い、教師に評価をもらう。(ペア) (5) ALTが店員役となり、生徒ペアが客役として実際に注文のやりとりに挑戦する。(ペア)	<ul style="list-style-type: none"> 「お好きな席へどうぞ」「予約していた〇〇です。」は英語で何と言うんだろう。 読み方が分からない。 自信を持って言いたいけど、正しいかどうかかわからないと、どうしても声が小さくなってしまふな。 英文を間違えずに言おうとすると、棒読みになりがちだな。 ネイティブスピーカーを相手に、上手く伝えることができるだろうか。 英語は完璧じゃなくても、相手に伝えようとする態度が大切だな。 相手の気持ちを考えて表現を工夫することが大切だな。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでメニュー・表現カードを使い、既習単語を使ってシナリオを作るよう促す。 わからない単語は生徒同士で教え合い、それでも分からなかったものは教師に質問させる。 パフォーマンスの内容に応じてステッカーを渡し、生徒のモチベーションを高める。 評価基準をスクリーンに映して生徒が自分のレベルに合わせた目標を設定できるようにする。 「表情がいいね」「もう少し声を大きく」など非言語表現を肯定的に評価し、生徒の余裕を引き出す。 ALTは生徒の即興性を引き出すために少し難しい表現や、教科書にない表現を用いて会話する。 「どう工夫したらもっと伝わるか」を考えさせる。
5 振り返りをする。		

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① レストランへの入店から注文までに使う語句や表現を理解している。 ② レストランへの入店から注文までに使う語句や表現を理解し、おすすめメニューなどを聞き取る技能を身に付けている。	○ レストランで食事をするために、自分の食べたいものやおすすめのメニューなどについて、伝えたり、尋ねたりしている。	○ レストランで食事をするために、自分が食べたいものやおすすめのメニューなどについて、伝えたり、尋ねたりしようとしている。

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

三豊・観音寺支部英語部会

1 研究主題について

■三豊・観音寺支部では、県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」を研究主題とし、サブテーマを「表現力の育成をめざした英語授業の創造」とした。また、来年度に行われる令和8年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会にむけて複数回の研修会及び討議会を実施した。

2 研究と実践

(1) 三観地区 総会

- ・日時 令和7年5月1日(木)
- ・場所 豊中町農村環境改善センター
- ・講和
- ・組織、研究主題の決定、研究計画立案

(2) 三観中研夏季研修会

- ・日時 令和7年7月25日(金)
- ・場所 豊中コミュニティーセンター
- ・令和8年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会に向けた話し合い

- ・各学校における表現活動の実践報告

【研究大会に向けた方向性・展望】

「相手意識を念頭に置いた表現力の育成(全分科会に共通)」

[第1分科会：話すこと(やりとり)]

(観音寺市立豊浜中学校 合田英成教諭)

- ・内容：学校行事の紹介について
- ・ポイント：相手に伝わりやすい表現の使用
 - ：生成AI積極的な利用
 - ：ALTからの質問に即興で対応

[第2分科会：話すこと(発表)]

(三豊市観音寺学校組合立三豊中学校 横関朋大教諭)

- ・内容：異文化理解
- ・ポイント：対象の相手に応じて提案する
 - ：柔軟に情報を受け入れる

：シンプルに(かみ砕いて)伝達する

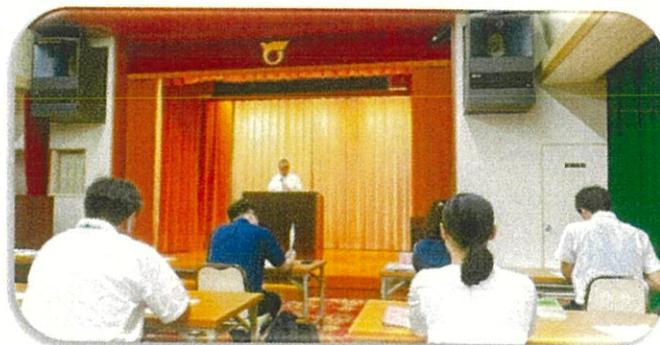
[第3分科会：書くこと]

(観音寺市立中部中学校 小畑彰哉教諭)

- ・内容：ふるさとのおすすめ ポスター作成
- ・ポイント：対象の相手に応じて提案する
 - ：翻訳サイト「DeepL」の効果的な使用
 - ：ライティングに対する抵抗感の減少

(3) 研究授業

- ・日時 令和7年10月14日(火)
- ・授業者：藤川裕貴教諭
(三豊市立高瀬中学校)
- ・題材：Society for All(BLUE SKY3)
- ・授業討議
- ・指導
- ・令和8年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会に向けた状況確認



3 成果と課題

■今年度は、来年度に控えた令和8年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会に向けて部会で話し合いの機会を多くとることができた。各分科会を三豊・観音寺の11校で振り分け、また、分科会ごとに各校の実践報告を共有しあうことで、新たな知見を得ることができた。また、そこで得た研修成果を各分科会の授業者が中心となって各校に持ち帰り、授業構想に活かすことにもつながった。若年教員の増加に伴い、今年度の研修が互いに刺激を与えるよい機会となった。

しかし、令和8年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会にむけておおまかな大枠を決定することはできたが、各分科会において、具体的な授業展開及び授業構想は不十分などところが多い。限られた期間の中で、三豊・観音寺の全部員が一丸となり案を持ち寄り、最高の研究大会になるように押しすすめていく必要があると強く感じている。

また、「相手意識を念頭に置いた表現力の育成」を図っていくために、全部員が各校の日々の授業から意識を高め、試行錯誤を経ながら取り組んでいく必要があるということも、これら研修を通して、強く実感した。

令和7年度 香川県中学校教育研究会英語部会 事業概要

1 理事会

- (1) 第1回 令和7年5月18日(日) 会場：高松シティホテル
 - ① 令和7年度事業計画について
 - ② 決算報告・予算案審議
 - ③ 支部研究発表費予算案について
 - ④ 中英香川第62号編集について
- (2) 第2回 令和7年6月14日(土)
※ 本年度中止
- (3) 第3回 令和7年11月22日(土) 会場：高松シティホテル
 - ① 令和8年度 研究テーマについて
 - ② 令和8年度 県大会について
- (4) 第4回 令和8年2月7日(土) 会場：高松シティホテル
 - ① 令和7年度決算・会計監査報告
 - ② 令和7年度の取り組みについて
 - ③ 令和8年度事業計画について
 - ④ 各支部理事への申し送り

2 香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会

期日 令和7年7月29日(火)

会場 坂出グランドホテル

内容 ① 講演・ワークショップ

演題 『教科書を使って知識も技能も高め、終わりのチャイムで『え？もう？』と生徒が驚くような授業を創る』

講師 英語“ワクワク授業”研究所 代表 中嶋 洋一 先生

② 講評・指導

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 植松 崇人 先生

3 香川県中学校教育研究会英語若年研修

○若年研修Ⅰ

期日 令和7年9月30日(火)

会場 坂出市立坂出中学校

内容 授業参観、研究討議、ワークショップ

授業者 片山 真帆 先生

題 材 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Program5 The Story of Chocolate

○若年研修Ⅱ

期日 令和7年10月21日(火)

会場 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 授業参観、研究討議、ワークショップ

授業者 日野 康志 先生

題 材 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6 How can we make a good presentation?

4 機関誌「中英香川62号」発行